最　　新

唱歌教科書

（伴奏附）

故郷の山河

Moderato.

一ウララノーヒカゲニ　一一ハナハサケド　一フ
二みそらの一つきかげ　一一きよくすめど　一ふ

mf　p　mf

ルサトーオモへバ　一一コマ　コ一ロワビシチあ
るさとーおもへば　一一まな一こくもるあ

p　mf

チハイもアニオトツツガハナキカ　一一ユゆ
れいもさもがきつつがはなきか

rit.

メニモミウルヨサトノチヤマは　一一ナわ
めにもみうるよさとのちやまは

rit.

ゴリチすシミテワカレシハルハフタ一タビコ
がやをはなれていくとしつきをさすーらふこ

p　a.tempo.

ノ一ミニメグリキタル一イづレノトキニカコま
の一みにあきはきたる一いづれのときにかま

f

トナシトゲテコヒシキヤママカハワレハトハ
なびたをへてなれこしきやままかはわれはとは

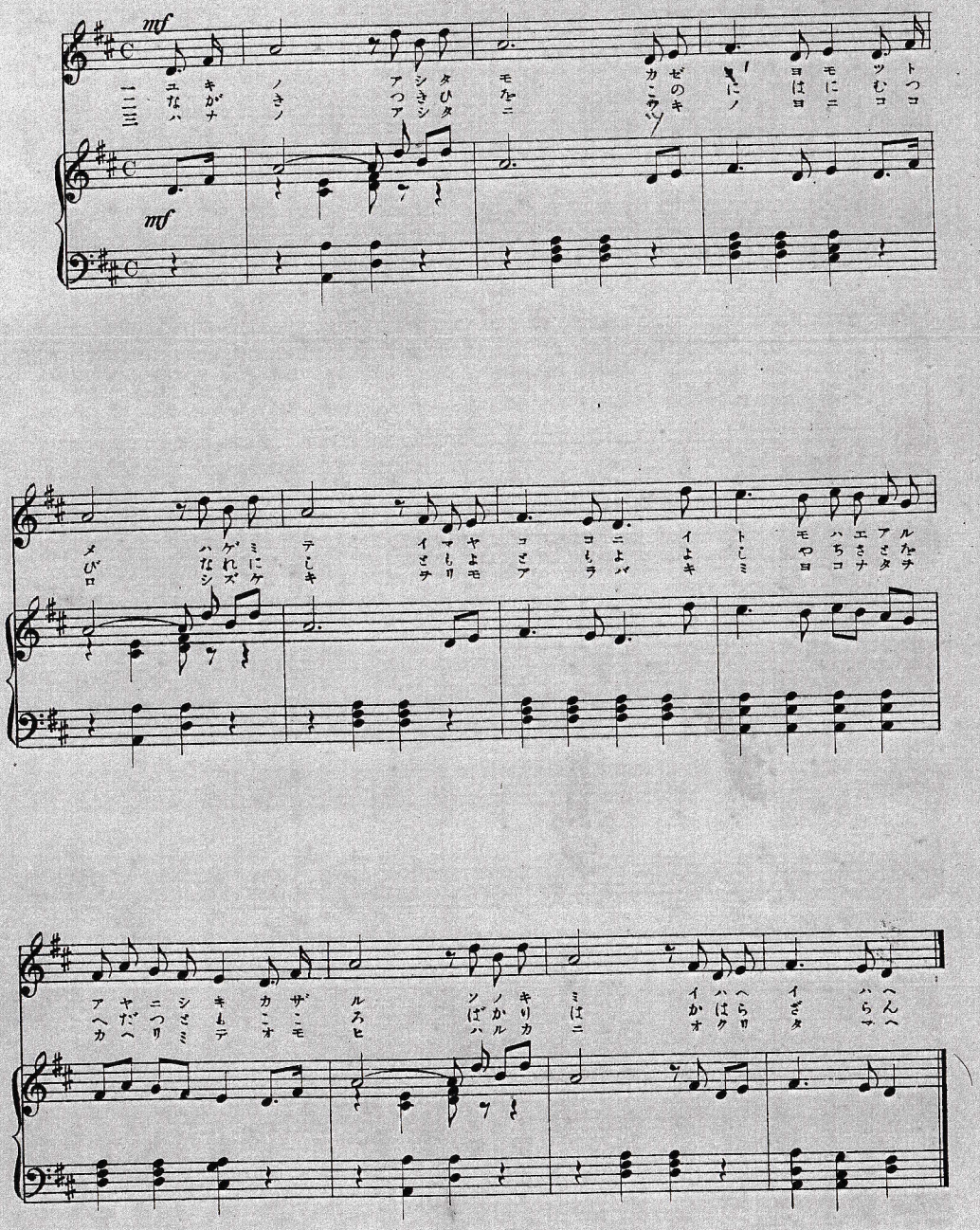
f　p　rit.

a.tempo.

ンン
一一

a.tempo.

卒業の友を送る



昭和貳年三月二十日印刷
昭和貳年四月一日發行

定價金壹圓五十錢

編纂者　若狹萬次郎

印刷者　大阪市東區北濱三丁目二〇番地ノ一　山中壽一

印刷所　大阪市東區北濱三丁目二〇番地ノ一　山中金龍堂

發行所　大阪市西區北堀江通一丁目　日本樂器製造株式會社　大阪支店

代表者　刀原四郎

不許復製

検印

○落花

ひらひら　ひらと　散るよ
いづこにゆくらん　さくら花
語らず　いはず
流れに　うかびて
ゆくか。

○田植

大童　球溪

一、新緑の若葉の茂れる鄙には
田植の菅笠涼しき歌聲
裳裾をぬらすも御國のみ爲ぞ
歌ひて植ゑよや筋目も正しく。

二、父母兄弟もろとも歌ひて
嬉しく樂しく植ゑたる玉苗
豐けきみのりを今より見るか
葉毎に宿せる夜露の白玉。

○螢

一、軒端　きよき　夕月
宿す　露か　螢火
水に　影を　うつして
葉影　涼し　短夜。

二、白雨　はれし　夏の夜
蛙　なける　田面を
ちかり　ちかり　光かるは
螢の　やみに　飛ぶなり。

○夏の黄昏

山崎　紫皋

一、青葉若葉の　風そよぐ
小川の堤にさまよへば
ゆかしき香　ホロ〳〵と
夕やみもれてながれ來る

二、かすけきみ空の星かげに
螢のかがり火うつろひて
笑ふや　やさし卯の花の
香るやゆかし夏のよひ。

○湖上の月

一、浮べし小舟の棹をおきて
舷たゝき唱歌うたへば
其聲遙けく空にひゞき
雲居の月にも通ひゆかん。
躍れる小魚のかげも見ゐて
鏡と見する湖の面に
黄金の波を千々に碎く

二、又なき良夜と笛をとりて
好める曲調月にふけば
其音は清けく四方にひびき
岸べの村にも通ひ行かん
操つる水棹の雫おちて
鏡と見する湖の面に
白玉眞玉千々に碎く。

○夏の夜

一、なはてそひて　風は吹き
青葉しげり　香りみつ
仰ぐはるか　色もこく
瑠璃のみ空　雲はたへ
空にみつる　星はみな
きらきらきらら　ひかるなり
涼しき夜夏は來ぬ　たのしき短夜や
夜あそぶ夏は來ぬ　たのしめ夏の夜

二、水はみちて　川に田に
うたふ蛙　ふしもよし
雲井の夜に　なきてとぶ
聲もゆかし　ほとゝぎす
たびのやどに　夢をたち
ほとゝたゝく　くひなどり
おもしろき調べなり　樂しき夏の夜や
おもしろの夏は來ぬ　樂しめ夏の夜。

○夜の歌

犬童　球溪

一、夜の帷あたりをこめて
月かげ幽に木の間をもり來る
靜けき夜や
遠くひゞく妙なる小箏
誰にきけよの誰れの調べか。

二、里も森も靜に更けて
星かげきら〳〵み空にまたゝく
淋しき夜や
遠き彼方笛の音ひゞく
誰れにきけよの誰れの調べか。

○故郷の山河

一、麗朗の日かげに花は咲けど
故郷思へば心わびし
父母兄弟つつがはなきか
夢にも見ゆるよ故郷の小山
名殘を惜しみて別れし春は
再び此身にめぐり來る
何れの時にか事成し遂げて
戀しき山河　馴れにし山河
我は訪はん。

二、み空の月かげ清くすめど
故郷思へば眼曇る
姉妹友がきつつがはなきか
夢にも浮ぶよ故郷の小川
我家を離れて幾年月を
さすらふ此身に秋は來る
何れの時にか學業を終へて
戀しき山河　馴れにし山河
我は訪はん。

○波路の彼方

犬童　球溪

一、黄金色そめし　遙けき海原
靜かに暮れそめて　夕日は沈むか
思へばなつかしや　波路の彼方の。

二、心ははこばずや　わが胸しら波
戀しきふるさとの　母ます磯邊に
思へばなつかしや　波路の彼方の。